

# 内面の美しさ形に

日立

## 創作人形作家・日高朋子さん

日立市塙山町の創作人形作家・日高朋子さんが主に手掛けるのは、木芯桐塑(もくしんとうそ)人形。キリのおがくずに糊を加えたもので整形し、

その上に和紙を重ねて作る人形で、独特の質感が特徴だ。幼少時から、絵画に囲まれた生活を送っていた。「また、近くに彫刻家のアトリエがあり、よく出入りして、よく出入りしていたのが原体験」。人形制作は、学生時代に、芸大に通う友人の影響で独学で始めた。



自宅で制作に没頭する日高さん

結婚後、さらに腕を磨きたいと、大学に通ったり、伝統人形の人形師にも師事。自由かつ達な創作人形に、伝統人形の輪郭が与えられ、今の作風になった。

の輪郭が与えられ、今の作風になった。

作る人形は、すべて女性。人形を通して常に、「美しさとは何か」を問い続けている。「外見的な美しさのみならず、内面の美しさを表現するための形。それを模索している」

日高さんの人形の持つエレガンスさは、多方面で評価され、2年前には、作品「風の径」が、時計メーカー「オメガジャパン」の目に止まり、「スウォッチ」のイメージキャラクターに採用される栄誉も得た。

「形にこだわらず変化させたいが、様式美を重んじる伝統人形の『血』が注ぎ込まれているせいか、まだ形を崩せない自分がある」。最近再び、ブロンズ像も始めるようになった。「以前に手掛けた作品が『宿題』であり、ライバルですから」と。



作品「風の径」

## 自由創作に光る伝統美

なお、日高さんの所属するグループ「アトリエライフ」(岡山孝子代表)の作品展が、7月27日から31日まで、日立シビックセンター(幸町)で開かれる。問い合わせは同グループの川井さん(☎0294・210454)へ。